

## 目の不自由な皮膚科医のこと

櫻井尚美 (23S2018)

近隣の皮膚科では、おそらく目が不自由な医師が診療されています。

「おそらく」と書いたのは、病院内で先生の視覚的な制約が明示されていないためです。

問診は先生が行いますが、炎症が起きている部位の皮膚サンプルの取得や顕微鏡での確認は、他のスタッフが行っています。

そして、その皮膚科はいつも混雑しています。その理由は、問診が非常に詳細で的確であるからだと分析しています。見えないものを感じ取るために五感を駆使して診察されている様子があり、それが患者にも伝わっているようです。福場先生も、お話の中から近所の皮膚科の先生と同様に、非常に丁寧に親切な診察をなさっている印象を受けました。

本日のお話の中で特に心に残ったのは、「声色はごまかせない」という言葉です。私は感情が表に出やすいタイプで、怒りが現れると声色にも表れると思います。自分の声の表現にも、内面の声にも意識を向け、清潔な声色を目指していきたいと思います。

本日は非常に有益な講義、ありがとうございました。